4　　忠平と鬼 　文法　未然形接続の助動詞①

この殿、うけたまはらせたまひて、おこなひに陣座ざまにおはします道に、ののうしろのほど通らⓐせたまふに、もののけはひして、御のいしづきをとらへたりければ、いとあやしくてさぐらせたまふに、毛はむくむくとおひたる手の、ながくて刀の刃のやうなるに、鬼なりけりと、いとおそろしく　おぼえけれど、臆したるさま見えⓑじ、と①念ぜさせたまひて、「おほやけのうけたまはりて、に㋐まゐる人とらふるは何者ぞ。②ゆるさずは、あしかりなむ」とて、御太刀をひき抜きて、かれが手をとらへさせたまへりければ、まどひてうち放ちてこそ、③のざまに㋑まかりにけれ。

語注

この殿＝のこと。

陣座＝公卿が議定をする場。

南殿＝。儀式や公事を行う場。

御帳＝ここでは天皇の御座所。

いしづき＝刀剣のの先を金物で飾った部分。

定＝公事の評定。

丑寅＝鬼門。鬼が出入りする方角とされる。

隅ざま＝遠くの方。

【原文】

この殿、うけたまはらせたまひて、おこなひに陣座ざまにおはします道に、ののうしろのほど通らせたまふに、もののけはひして、御のいしづきをとらへたりければ、いとあやしくてさぐらせたまふに、毛はむくむくとおひたる手の、ながくて刀の刃のやうなるに、鬼なりけりと、いとおそろしく　おぼえけれど、臆したるさま見えじ、と念ぜさせたまひて、「おほやけのうけたまはりて、にまゐる人とらふるは何者ぞ。ゆるさずは、あしかりなむ」とて、御太刀をひき抜きて、かれが手をとらへさせたまへりければ、まどひてうち放ちてこそ、のざまにまかりにけれ。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

藤原忠平が、〔　　　　〕をお受けして執り行うために〔　　　　〕あたりを通ると、〔　　　〕に出会った。太刀を抜き、鬼の〔　　　〕を捕まえたところ、逃げ去った。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（終止形でよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの文法的意味と活用形を答えよ。〈3点×2〉

ⓐ〔　　　　〕〔　　　　〕形　ⓑ〔　　　　〕〔　　　　〕形

問四　チェック問題　未然形接続の助動詞①

⑴　次の助動詞の活用表を完成させよ。〈1点〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ず | |  |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  | | 接続 |

⑵　次の傍線部の助動詞の文法的意味を答えよ。〈1点×3〉

1　世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし（伊勢物語）

2　人を苦しめ、法を犯さしめて、それを罪なはむこと、…（徒然草）

3　言ひつること、いま一かへり我に言ひて聞かせよ。（更級日記）

1〔　　　　　　　　　　〕　2〔　　　　　　　　　　〕

3〔　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①は「この殿」のどのような様子を表したものか。三十字以内で答えよ。〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②の解釈として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　お前が犯した重い罪を、決して許すことはできない。

イ　お前を捕らえたことは、私の名誉にとってはよくないことだ。

ウ　手を放さなければ、お前にとって不都合なことになるぞ。

エ　お前が罪を認めなければ、さらに痛い目にあわせてやろう。

〔　　　〕

問七　傍線部③は方角を表しているが、どの方角か。正しいものを一つ選べ。〈5点〉

ア　南西　　　イ　北東　　　ウ　南東　　　エ　北西

〔　　　〕

問八　本文はどのような主題で書かれたものか。最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　鬼への恐怖に打ち勝った忠平の心の強さ。

イ　鬼の心にも響き伝わる忠平の正義感。

ウ　天皇の名誉を守りぬいた忠平の忠誠心。

エ　天皇の警備を全うした忠平の責任感。

〔　　　〕

【解答】

問一　宣旨　南殿　鬼　手　※宣旨は勅宣も可

問二　㋐＝参上する　㋑＝退出する〈4点×2〉

問三　ⓐ＝尊敬・連用形　ⓑ＝打消意志・終止形〈3点×2〉

問四　⑴〈1点〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ず | |  |
| ざら | （ず） | 未然形 |
| ざり | ず | 連用形 |
| ○ | ず | 終止形 |
| ざる | ぬ | 連体形 |
| ざれ | ね | 已然形 |
| ざれ | ○ | 命令形 |
| 未然形 | | 接続 |

⑵　１＝反実仮想　２＝使役　３＝使役〈1点×3〉

問五　鬼につかまれたことによる恐怖を見せまいと我慢する様子。（27字）〈12点〉

問六　ウ〈8点〉

問七　イ〈5点〉

問八　ア〈7点〉

【現代語訳】

この殿〔＝藤原忠平〕が、宣旨をお受け申し上げなさって、そのことを執り行うために陣の座の方へいらっしゃる通路を、紫宸殿の御座所のうしろのあたりをお通りになるときに、何者かの気配がして、（そのものが）御太刀の石突きをつかまえたところ、（忠平は）たいそう奇妙に思ってお探りになると、毛は気味が悪いほど生えている手で、爪は長く刀の刃のような手なので、鬼であったよと、たいそう恐ろしく思われたが、（忠平は）怖じ気づいたさまを見せまい、と我慢なさって、「天皇の勅命をいただいて、（その）公事の評定（のため）に参上する者をつかまえるとは何者だ。その手を放さないならば、（お前にとって）きっと不都合なことになるだろう」と言って、御太刀を引き抜いて、その者の手をおつかまえになったところ、（鬼は）うろたえて（その手を）放して、（鬼門である）北東の遠くの方へ退出してしまった。

【補充問題】

問１　「かれが手をとらへさせたまへりければ」（６行目）を、主語と「かれ」が指す内容とを明らかにして、現代語訳せよ。

問２　「鬼なりけり」（３行目）と判断した根拠を、本文中から三十字以内で探し、最初と最後の五字を答えよ。

【補充問題解答】

問１　（藤原）忠平（様）が、鬼の手をおつかまえになったところ

問２　毛はむくむ　～　のやうなる［やうなるに］